

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592100053		
法人名	日向農業協同組合		
事業所名	JA日向グループホームうなま		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷入下800番地		
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果市町村受理日	令和元年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうなまは、山間部にあり静かな環境の中にあります。さらに中庭には木々等や小さな畑もあり、のどかな空間もあります。利用者の家族や近所の方々がお旬の食べ物や野菜・果物を持参して下さり、誕生会等の催しの際は御家族や利用者および職員で食事や会話の場を設けています。また、利用者の出来ることを職員も一緒に行ったり手伝っていただいたりして、その人らしい生活が送れるようケアをすることに努め、その人の立場を尊重しながら挨拶や笑顔を絶やさないように取り組んでいます。さらに、働きやすい環境を作り出すために職員間で意見交換し、「物事はみんなで話し合っ決めていく」ことをモットーに日々の業務に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりにより良いケアを提供できるよう努めている。地域で開催される地蔵祭りは、利用者が慣れ親しんだものであることから、全利用者が参加できるよう支援するなど、地域との交流に取り組んでいる。管理者は、職場環境を整え、職員が相談しやすい雰囲気づくりや的確なアドバイスができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者をはじめ職員全員で地域とのつながりを大切にしながら、ホーム独自の理念を作り見える所に掲示して全員でその理念に沿って業務に取り組んでいる。	職員会議にて地域密着型サービスの意義を確認し、理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民より野菜や果物をいただいたり、地域の催しや行事に参加したり、あるいは買い物やドライブに出かけたりするが利用者全員で交流を図る機会が少ない面がある。	散歩やスーパーへの外出時に地域の人と挨拶を交わしたり、地域の人が季節の野菜や果物の差し入れを持って来て、利用者とは話をするなど日常的に交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いまひとつ地域に向けた発信や認知症の人への理解が不十分な面もあるが、徐々に理解に向けての広がりも見られる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では2か月に1回、定期的に開催しており、会議の中で出た意見を参考にしながら日常の業務に活かしていこうと取り組んでいる。	運営推進会議の出席者から行事計画や災害について意見をもらい、年間の行事計画表を作るなどサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当ホームの現状や相談などのために出向いたり運営推進会議等で意見を聞いてなお一層の協力関係を築いていきたい。	運営推進会議への参加や認定調査でホームの実情や取組を把握してもらい、相談できる関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を明示するとともに職員全員で理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議で、身体拘束の弊害について話し合うなど、その理解を深めるよう努めている。また、職員は自分の言動を振り返り、気になる場合は管理者に相談するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において意見を交わしたり、虐待を見過ごすことのないように利用者の身体や精神および言動に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において権利擁護に関する制度について勉強する機会を設けていないので、会議の中で必要性や制度の理解を深めることを行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明などは説明しており家族が疑問に思ったことはその都度説明して納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や体調・行動の変化等に注意して本人の思いに添うように努め、行事や会議あるいは面会等で伝える機会を設けている。	家族に利用者状況を郵送で報告し、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞きだせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の利用者との関わりの中で、各職員の気づきやアイデアを取り入れながら日常業務に反映させている。	排せつ状況から昼間のパットの不要性や、トイレに近い居室への変更を提案するなど職員の意見や提案を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況やスキル等を考慮し、また体調にも配慮しながら、やりがいのある職場環境に努め、その都度相談もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力は把握しながらも内外の研修を受ける機会の確保は不足している。今後計画的に研修に参加することを念頭に各職員の技術や知識を向上させることに取り組む必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流する機会が以前より少ないので同業者との研修や勉強会に積極的に参加する機会を設けていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談などで本人の生活状況等の把握に努め、本人より不安や要望を聞きながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に当ホームを見学していただいたり、家族の意見や要望を聞きながら職員間でも確認して、家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時や家族からの相談時に本人や家族の思い・要望を確認し、改善に向けた支援の提案やそれに対するサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身に着いている事や、出来る事(食器洗い・皮むき・洗濯物干しやたたみ・テーブル拭きなど)を職員と共にしたり利用者という言葉や笑顔に励まされたり笑ったりして支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや要望に寄り添い、日々の出来事や気づきを共有し、家族の協力を得ながら一緒に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで本人の地元や自宅を伺ったり、馴染みの方と面会したり来ていただいたり、家族の協力を得ながら外泊されたり親戚や近隣の方々と交流されたりして関係が途切れないように努めている。	馴染みの方が、週1、2回面会に訪れている。家族の面会も気持ちよくできるよう声掛け等に配慮している。また、遠方の家族と、電話で話せるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に会話したり手伝いやボール遊びをしたりして、利用者同士がふれあい、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもその後の本人の状況の把握に努め、時には面会し、必要な情報の提供や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の言葉や表情・行動などから本人の思いを考慮し、それらを家族に伝えて情報を得ながら、本人本位で検討している。	理念でもある「その人らしさ」を大切に、本人からだけでなく、家族からも意見や情報を得て、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と直接会話したり、家族の面会時にこれまでの生活や暮らしぶりを聞いたり、ケアマネジャーや関係者(医師や看護師など)からの情報も踏まえながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に合わせて出来なくなった事より出来る事に着目して、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向も踏まえ、ケア会議等で各利用者の現状や問題点とその解決策等の意見を出し合い、計画を作成して日々のケアに努めている。	利用者の状況や課題から現状に即した介護計画の作成はあるが、ファイリング等の問題から職員が介護計画を把握し、ケアへ連動するに至っていない。	介護計画を全職員が把握し、日々のケアの指針にできるよう、いつでも介護計画を確認できるシステムづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・健康状態・日々の言動等を記録し、申し送ったりしながら全職員で情報を共有し、計画に活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に沿えるように、利用者一人ひとりに対応しその時の本人の希望に出来るだけ応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議や行事等で地域住民の協力を得ながら利用者の日常の暮らしを安全で心豊かなものであるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はほとんど近くの町内の医療機関だが、以前と医療機関が異なる場合は本人や家族に説明して、体調によっては医療機関や家族と連絡を取りながら、適切な医療が受けられるように支援している。	医療機関に本人の状況が正確に伝わり、適切な医療が確保できるよう、職員が付き添い、受診支援を行っている。受診状況は、申し送りノートにて全職員が確認するよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常々個々の利用者の健康管理や状態の変化に応じてかかりつけの看護師に連絡し、指示を仰ぎながら申し送りに記録し職員間で共有し、常に連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態を家族等に報告するとともに、面会時には病院からの情報を得て相談に努めている。また、退院時には主治医をはじめ病院関係者と話し合い、退院の受け入れ体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、また段階を追って本人・家族と話し合いながら、さらに地域医療機関とも相談して家族の協力を得ながら取り組んでいる。	入居時及び状況の変化に応じて、医師の意見等も踏まえ、本人・家族等と話し合いを重ねて意思を確認するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を作成し、緊急時に備えているが、定期的な訓練や研修等は少なく、実践力にはやや不安があり、今後研修等の機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	これまで避難訓練等の実施が少なかったので、役場や関係者・業者の協力も得ながら定期的に訓練を実施し、協力体制を築いていくように努めたい。	緊急時の近隣支援者の連絡先を含む連絡網作成や万が一の時の通報システムはあるが、近隣支援者の役割分担など具体的な取り決めがなく、特に職員が少ない夜間の災害の備えが確立されていない。	近隣の支援者を含めた避難訓練を実施し、支援者に事業所内の配置や役割分担を確認するなど、災害対策に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の気持ちを大切にケアに心がけ、また自己決定しやすい声掛けをするように努めている。	個人を尊重した呼び方や言葉遣いに配慮するよう努めている。口調が強くなるなど気になるときは、その都度管理者が指導し適切な対応ができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者に合わせて声掛けしたり、本人が聞こえづらいときはジェスチャーや筆談で伝えたりして自己決定が可能なように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、なるべく一人ひとりのペースに合わせて、本人の希望も踏まえて無理のないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人で出来る方は自分の意向でしていただき、特に女性の利用者は地元の美容室の方に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が隣同士で食事をしたり、野菜の皮むきや下ごしらえ・食器洗い・お茶の葉詰め・食器の下膳などを手伝っていただいたり、テーブル拭きもしていただいている。	利用者は、一人ひとりの力を生かし、下ごしらえやテーブル拭き、後片付けなどを行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎日記録するとともに、食べにくい時あるいは嚥下状態の良くない場合は本人に確認し食事形態を変更して様子見たり、とろみを使用したり水分量にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの準備および声掛け・見守りを行い、確認をしながら口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分ひとりでトイレが難しい利用者には日中定期的にトイレの声掛けを行い誘導したり、本人の排泄パターンを考慮しながらトイレでの排泄に努めている。	利用者の様子や排せつパターンから声掛け誘導を行い、排せつの自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フルーツヨーグルトや乳酸菌飲料等の食材を取り入れたり、軽い運動を行ったりして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴の休みを設けず、失禁等の利用者にはその都度入浴やシャワー浴をしていただいたり、本人の希望があればなるべく本人の意向に沿って入浴できるように努めている。	利用者が希望する曜日や時間に合わせ、いつでも入浴できるよう支援している。また、冬場はゆず湯など、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者の体調や希望に応じて居室等で休んでいただいている。また、意思表示の困難な方は表情や様子を見て声掛けし、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や薬の処方箋を見て、薬が変更になった場合は申し送りにて職員で共有し、確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に声掛けを行い、散歩・ドライブ・買い物あるいは自宅訪問などをしたり、利用者全員でボール遊びや塗り絵を行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や地区の行事(祭り)・花見等を希望される利用者には、天候や職員の勤務状況に応じて可能な限り出かけるように努めている。	利用者の希望により、近所のスーパーへ買い物に出かけたり、近隣を散歩するなど、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれる場合、自己管理が出来る利用者であれば財布を持って職員とともに買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各利用者からの希望・要望があれば、本人に相手先を聞いたり、電話番号を確認したうえで、なるべく本人に受話器を持って話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの草花や色紙で作った飾り・各利用者の塗り絵・写真等をホールや玄関に展示し、明るい雰囲気の中で居心地よく過ごせるように努めている。	壁面の飾りや展示物は、季節を感じられるよう工夫され、料理のにおいやまな板の音等、生活感が感じられるよう台所を配置するなど居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にベンチを置いたり、利用者の中で気の合った者同士で会話されたり、好きな場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所や面会時に家族に相談して自宅で使い慣れた物や記念の写真・品物等を持参していただいたり、日常の各利用者の表情等の写真を各居室に飾ったりしている。	使い慣れた寝具やタンスなどを持ち込み、自分の部屋として居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームやホールはあまり広くないが、一人ひとりの利用者の能力に応じて居室の配置を考慮し、目配り・見守りに心がけて安心かつ本人のペースで日頃の生活が出来るように努めている。		